



令和2年7月1日現在

総世帯数	7,839世帯
総人口	17,174人
男	8,582人
女	8,592人

地域の子どもを学校と協力して育てるために、様々な事業が取り組まれています。

筑摩野中学校では、本の読み聞かせや放課後の自主学習の見守り、技術家庭科の学習支援などが行われ、こうした活動を「コミュニティ・スクール事業」と呼んでいます。

筑中夏季自習室開放

コロナ禍で迎えた今年の夏休み。芳川・寿公民館では、新たに、筑中生にそれぞれ公民館の一室を開放することにしました。7月28日から8月21日まで、冷房の効いた部屋で、筑中生が思い思いの課題にチャレンジ。利用者数は延べ84人でした。

中には10回足を運んでくれた生徒もいました。「エアコンで涼しく、集中して勉強ができる」、「休み明けにテストがあるので、部活以外の時は、ここに来て勉強をする日課となった」と公民館の自習室が気に入った様子が見られました。この企画の学校側の窓口となった田野教頭先生は「利用した生徒たちから感謝の声が届いています。地域に支えていただく場がまた1つ増えました」と、今後も継続を望む声をいただいています。

今年も、コロナ禍ということもあり、3密を避けての開放となりましたが、将来は、高校生、中学生、小学生が自由に集い、下の学年の学習支援をしたり、地域の大人が相談に乗ったり、体験を語ったりできるような場となればよいですね。



芳川男厨会

絶品のトマトソース

焦がさないように丁寧に丁寧に!

芳川男厨会(男性)

の料理教室)のメンバーがチャレンジしているのは、特性トマトソースづくり。

一般的な材料は、トマト、セロリ、タマネギなどですが、農村女性マイスター林昌美さん(平田)のお勧めレシピは、加工用トマト、パインアップル、ニンニク、タマネギ、カレー粉などが加わるユニークなもの。

相性抜群のパスタになじませると絶品が誕生しました。

この日は、とつから味噌にもチャレンジ。こちらは冷ややつこのトッピングに最高!



完成までもう少し...



芳川男厨会では、
新会員を随時募集中!!
参加希望者は福祉ひろば
☎57-0168まで

コロナ禍による芳川地区関係イベント中止のお知らせ

詳しくは芳川公民館まで

- 松本市市民体育大会(地区対抗)(予定日:10月11日)
- VSよしかわマッチ(予定日:10月25日)
- 市長杯争奪球技大会(予定日:11月1日)
- 芳川地区文化祭(予定日:11月7、8日)

この他、各町会独自開催のイベント・公民館事業の開催の有無は各町会の回覧板または担当各位までご確認ください。

芳川

講師・柏澤由紀一
Vol.2



報恩に生きた知られざる松本人

小池 九一 KOIKE KYUICHI

(出典)「小池九一」シリーズ 福祉に生きる42(扶空社)

九一が丁稚奉公に出たのは、現在の県信松本支店のところにあつた、紙問屋の三嶋屋でした。小僧の仕事は厳しく、朝から晩まで、休む間もありません。奉公が始まって間もない頃、小僧仲間の一人が病死しました。身寄りもなく、医者にもかかれず、店主もほつたらかしでした。他人事ではありません。そのとき九一が思ひだしたのが、開智の先生の「人間は病気になるっても貯金をしておけば安心です。」という言葉でした。九一は「貯金をすれば、病氣にも備えられるし、お家再興の資金にもなる」と無駄遣いは一切せず、貯金することを決意しました。九一は肌着や普段着も自分で作りました。安い布を買って、それまで着ていた着物をほぐして、そのとおりに型をとって自分で縫ったのです。

14歳になった九一は、番頭見習いとして集金も任されました。その年の暮れ、ある家を訪ねると老夫婦が寝込んでいて、年も越せない様子でした。これはほつておけないと、九一は夫婦にお金を渡したのです。以後、九一は貯金通帳を2冊にして、お金が貯まると8割を家の「再興貯金」として、2割は恵まれない人や勇気ある行動をした人を激励する「慈善貯金」としたのでした。(次号に続く)

●芳川シニア短期大学受講者随時募集中！詳しくは芳川公民館まで

芳川の今昔物語

再建された忠魂碑

第31話

その昔……

大正6年2月25日に建立された忠魂碑は、3月11日に除幕式が挙行された。毎年3月10日の陸軍記念日に慰霊祭を行っていたが、敗戦により撤去されてしまった。忠魂碑のあった場所は不明である。



▲1917年3月11日撮影

昭和29年7月31日、村民の要望により殉国の英霊を祀るため、役場敷地の南西の位置に再建された。

現在は……

昭和51年8月末、芳川公民館・出張所の移転に伴い、芳川児童遊園の一角に移設されている。



▲2020年9月2日撮影

この位置に再建



▲撮影年不明

館報合冊販売価格改定

通常価格4,000円を

特別価格2,000円

お問い合わせは 芳川公民館

☎58-2034まで

芳川の歴史が
この一冊に!!



たちばなし

今年の夏は、コロナ禍と昨年にまざる猛暑である。

東京で毎月おこなう「柳田国男を読む会」へいきたいのだが、

県知事から自粛要請がでている。この猛暑のなか気持ちちは益々落ち込んでいく。

そこで、「読む会」は「今流行のテレワークですることにした。八月三十日、六十代・七十代各二人の高齢者が、パソコンで行なった。

レジュメをもとに、二時間半余り、柳田国男の『祭日考』(昭和二十一年)から『農村の夏祭』(全集十六巻)を読み検討した。この論考は、現在私たちが遭遇している新型コロナウイルスと重なる前代の精神史を語っている。疫病の横行は、最も堪え難く、祖神信仰の基礎を少しずつ揺るがし、又農村の新田開発の増大により、殊に害虫の襲来は怖ろしく新たに悪霊群の存在を信じさせた。これらの防止を目的とした祭が、農村の夏祭であった。

会が終わったとき、全員爽快。これが、コロナ禍の新しい生活様式かと実感したのである。